

第36回 高島炭鉱整備活用委員会 会議録

開催日時：令和6年8月23日（金）13：30～16：30

議事1（報告）

資料1 端島炭坑整備計画の進捗及びR6年度事業計画について

- 意見なし

議事2（報告）

資料2 端島炭坑第3竖坑捲座補強・補修工事について

- 第2期工事（第1期工事も必要であれば）の設計図面を委員に送付する。【A委員】
- 資料2の工事範囲を示す赤枠について、図的に正しい標記に資料を修正しておく。【B委員】

議事3（協議）→承認

資料3 端島神社下通路床版補強工事について

- 排水、防水処理の検討【A委員、C委員】
- 通路等の保存・整備基準（優先順位）を整理する必要。（生産施設に係る箇所を優先的に保護）【D委員】
- 重点箇所のゾーニングの図の作成【B委員】
- 雨水というより、飛来塩分が多いところなので、潮風で劣化が進んでいる。上だけ（防水を）塗っても果たしてどこまで止まるか。

今回の措置は非常用の応急措置。

木材を間に挟んでサポートを入れるのはよいが、角材による補強が途中で終わっているように見える。スラブの途中でやめると応力が変になり、損傷が集中してしまう可能性がある。角材は端から端まで合わせたほうがよい。

他の劣化状況を見ても、スラブと梁の境目が切れるというより、梁ごと落ちてしまうものもあるので、現在梁にサポートが1つしかついていないようなので、なるべく早く数を増やしたほうがよい。

穴が開いているところが最も劣化が進んでいるはずなので、重点的にサポートを入れたほうがよい。

穴の右側に角材が走っているが、角材より左側は歩かないほうがよい。【E委員】

議事4（協議）→承認

資料4 入坑栈橋の基本設計

- 入坑栈橋については、耐震安全性と耐久性・劣化の抑制の問題を切り分けた。【A委員、E委員】
- 防護架台により、耐震安全性については、地震で壊れた時に着座させる。
- 耐久性・劣化の抑制については、何らか別の方法が必要。継続審議。

そのメンテナンスの観点から架台フレームを有効に使えるよう計画したらどうか。

- 耐震安全性と耐久性に関しては案１'の架台を入れる案で実施するものとして基本設計を令和６年度に長崎市が発注する。【Ａ委員】
- 志免のような復元をするという考えはない。【Ａ委員、Ｂ委員、Ｆ委員】
劣化抑制により、ＪＣＩの試験の結果に期待して時間稼ぎをする。
- 資料１４ページのＪＣＩ調査結果【Ｄ委員】
各部材の劣化度についてもうちちょっと詳細にして、防水処理だけでなく、防錆処理をするなど、できることのリスト（今後の長期的な耐久性の問題に対する年次的な計画）を作成してもらいたい。
- 耐久性に関して窓を入れる案は継続審議【Ａ委員】
３階の開口部分に窓を入れて壁に近い形にすると構造的に強くなるのではないか。強い枠のフレームと強化ガラスというイメージ。【Ｇ委員】
窓が無い状態だと吹き曝しになって３階部分の床に雨が吹き込む。窓があると３階部分のスラブの保護にも繋がる。元々この開口部分には窓があったはずなので是非入れていただきたい。開口部を窓でふさぐと地震対策効果も増えるかもしれない。【Ｇ委員】
全部窓だったら全部閉めないという意味が無い。重くなって負荷がかかりすぎるので逆に悪影響になるかもしれない。【Ｄ委員】
階段部分はもともと壁と屋根があって部屋だったので、窓はない。【事務局】
階段部分の上の開口はどうするのかという話が出てきて、昔は無かったけどアクリル板のような窓と同じ機能を持たせるものを入れて水の侵入を防ぐ案もある。それと別に３階部分の見えない部分の梁は直しても良いという案もある。【Ａ委員】
- モニタリングをしっかり行っていく。【Ｃ委員、Ｄ委員】

議事５（協議）→承認

資料５ ７０号棟における試験施工について

- 意見なし

議事６-１（協議）→否認

資料６-１ 端島炭坑整備計画の見直しについて

- ①シルエットの記載削除・鉄筋コンクリート造建築物に係る調査研究の追記
- こういうふうな書き方にしたら問題点をクリアできるという代替案を提案してもらいたい。【Ｈ委員】
- シルエットというのは、歴史の中で事実として必要なもので、それも含めて、議論した上で、これを残すか残さないのかというのを決めなければいけない。【Ｄ委員】
- 世界遺産委員会に提出した資料（シルエットと記載したもの）を共有する。【Ｃ委員、事務局】

議事6-2（報告）

資料6-2 高島炭坑 端島炭坑 修復公開活用計画の改訂について

②生産施設劣化状況調査・保存対策検討

- どの時代にどう使われていたのか、それはどこの施設とどう関係しているのかという関連性、今どのように残っていて、それをどう修復するのかをまとめてもらいたい。【D委員】
- 建振協の検討工法について高島委員会に報告するフローの整理。【C委員、F委員】

議事7（報告）

資料7 護岸保存工事計画について

- 意見なし

議事8（報告）

資料8 端島炭坑等VRコンテンツ制作について

- 事業目的について、制作するVRの年代から考えると、世界遺産価値についての理解促進というよりも、石炭に関する産業遺産についての理解促進という書き方をしておくべき。【G委員】
- 史跡の活用を考えるうえで、現地に立つということの意義はとても大きい。そうすると、やはりARはかなり重要なポイントになってくるとおもう。現物が、どのように当時の様子とリンクするかというところは、お仕着せでVRを見せるよりは、相当重要になってくると思うので、今後ぜひ検討いただきたい。【H委員】